

はじめに

- 全体計画とは、大阪がめざすスーパーシティの実現に向けて、官民連携のもと強力に推進するために、地元自治体として大阪のスーパーシティがめざす姿、指定区域※で実施する先端的服务及び規制改革の内容などを全体的に取りまとめた計画である。
※令和4年4月大阪市がスーパーシティ型国家戦略特区の区域に指定

第1章 なぜ大阪はスーパーシティをめざすのか

- 世界有数の大都市である大阪が、規制改革を伴う先端的服务の提供を強力に推進するスーパーシティ制度を活用し、「グリーンフィールド」で先端的服务をいち早く実装し、また、大阪広域データ連携基盤（ORDEN）構築により、大阪市域、大阪府域への展開も実現し、全国都市のデジタル化をリードしていく。

1 世界有数の都市 大阪

圧倒的な人口集積を誇り、世界有数のグローバル都市である大阪において、唯一無二の日本を代表するスーパーシティをめざす。

2 「グリーンフィールド」で先端的服务をいち早く実装

グリーンフィールドでいち早く先端的服务を実装させ、スーパーシティ構想の実現に取り組み、先端的服务の全国展開への道筋を作る。

3 全国都市のデジタル化をリード

大阪広域データ連携基盤（ORDEN）構築により、全国都市のデジタル化をリードする。

第2章 大阪のスーパーシティ構想の概観

- 「データで広げる“健康といのち”」をスーパーシティ構想のテーマとして、2つのグリーンフィールドで3つのプロジェクトを展開、大阪全体へ広げていく。

データで広げる“健康といのち”

2023年度～
夢洲コンストラクション

3つの円滑化を推進

1. 建設工事現場内外の移動
2. 建設工事及び資材運搬
3. 建設作業員の安全・健康管理



2025年度
大阪・関西万博

テーマ
いのち輝く
未来社会のデザイン



提供：2025年日本国際博覧会協会



2つのグリーンフィールド

- ・夢洲
- ・うめきた2期

2024年度～
うめきた2期

中核機能のテーマ
ライフデザイン・イノベーション

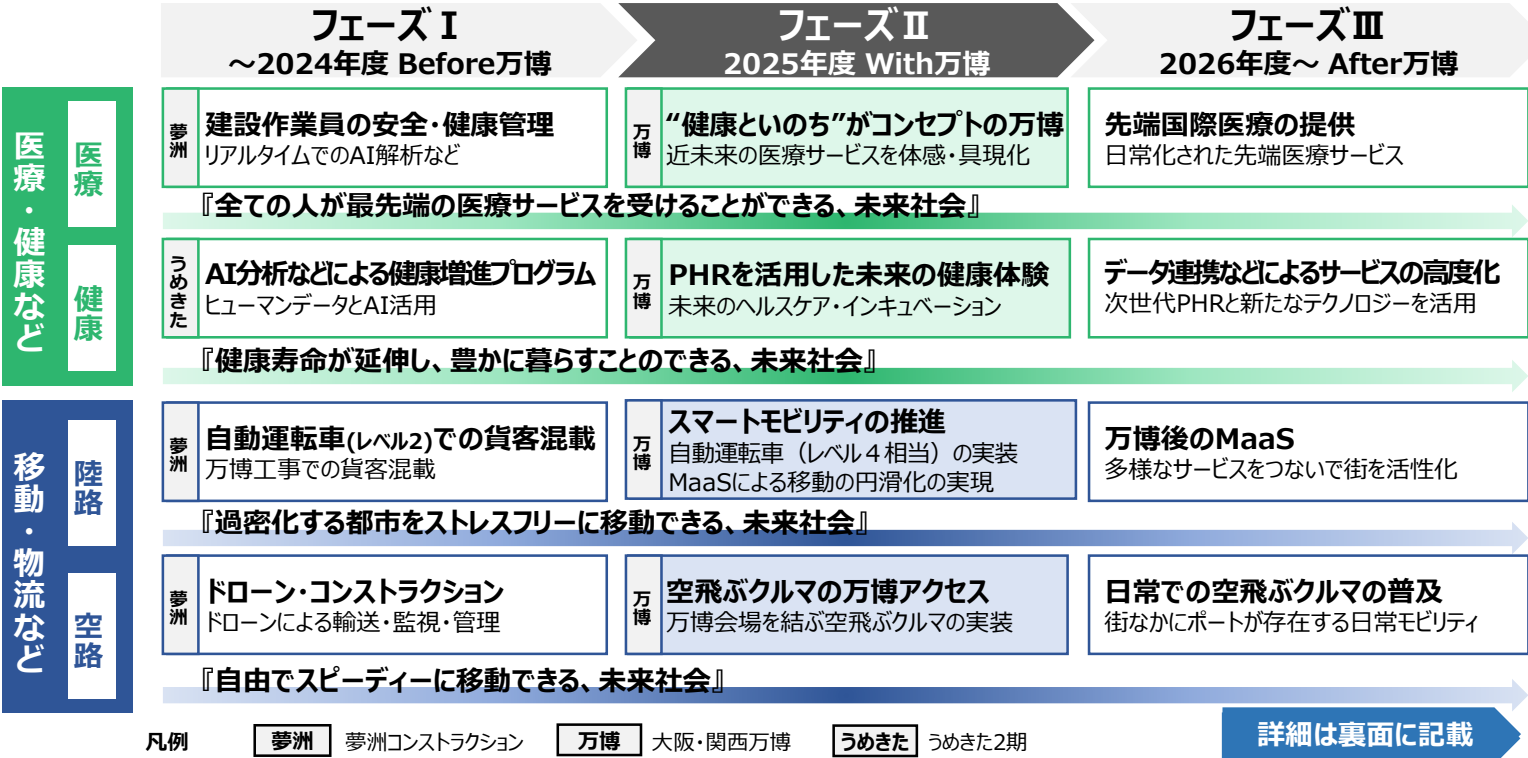


イメージパース（提供：うめきた2期地区開発事業者）

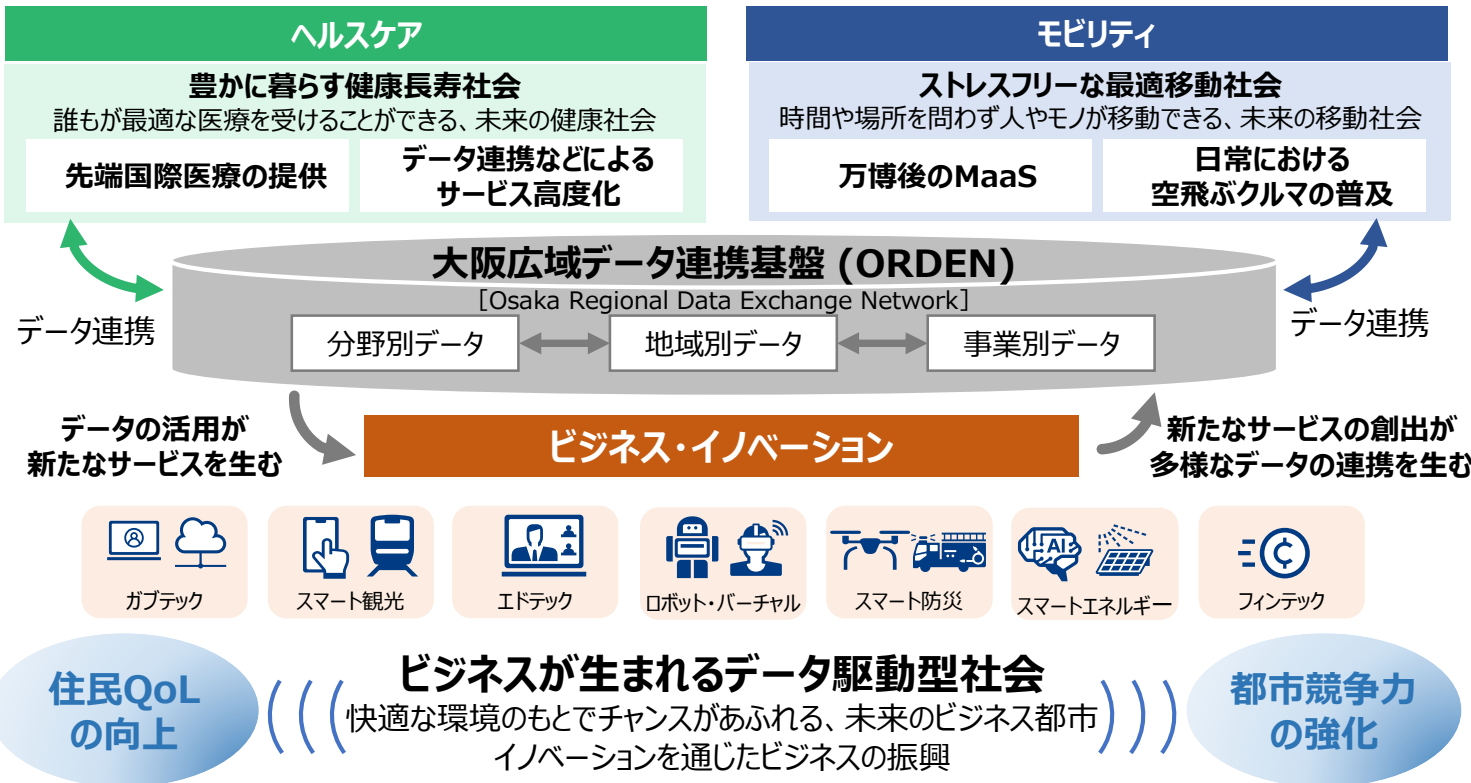
		フェーズⅠ Before万博			フェーズⅡ With万博	フェーズⅢ After万博	
		2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度～	
夢洲	夢洲 コンストラクション	サービス内容 検討・実証	夢洲工事 本格化	サービス実装 (万博関連整備)	万博開催 4/13～10/13	サービス実装 (万博跡地撤去)	サービス実装 (跡地開発)
	大阪・ 関西万博	サービス内容検討・実証				大阪市域、 大阪府域へ 展開	
うめきた 2 期		サービス内容検討・実証			サービス実証・提供	全体開業	
		夏頃			2027年度		
大阪広域 データ連携基盤 (ORDEN)		スーパーシティにおける活用 (夢洲コンストラクション、OSAKAファストパス（仮称）、うめきた 2 期など)					

第3章 構想実現に向けたチャレンジ

- 先端的服务の実証・実装や大胆な規制改革によりスーパーシティ構想の実現に取り組む。



- 2つのグリーンフィールドにおいて先端的服务の実証や実装を進め、また大阪広域データ連携基盤（ORDEN）を活用した様々なデータ連携を推進することで、次々とビジネスが生まれるデータ駆動型社会が実現し、ひいては住民QoLの向上と都市競争力の強化につながっていく。

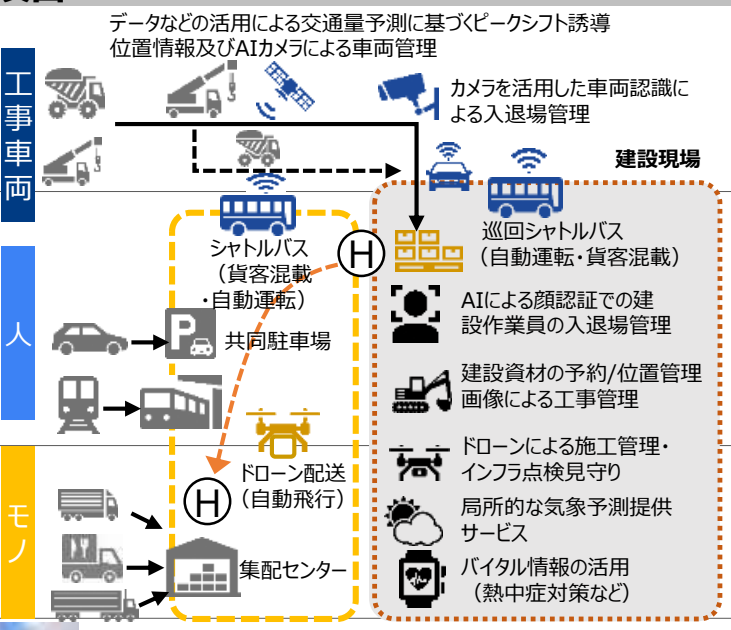


第4章 推進体制

- 全体計画の作成や推進等について、大阪スーパーシティ協議会で意見交換を行い、またアーキテクトから指導や助言を得ることで、事業実施主体が先端的服务実装を効果的に進められるよう産官学で推進する。

3つのプロジェクトの先端的サービス概要

下線は先端的サービスの実現にかかる規制改革が含まれるもの

	大分類	概要	先端的サービス項目
夢洲コンストラクション	建設工事現場内外の移動の円滑化	事前に建設車両の入退場時間を予約し、入退場ゲートでのカメラによる画像認識により予約車両の確認を自動化することで工事現場への円滑な入場が可能となる。	① データなどの活用による交通量予測に基づくピークシフト誘導 ② 位置情報及びAIカメラによる車両管理 ③ カメラでの車両認識による入退場管理 ④ 駅及び共同駐車場からのシャトルバス・デマンドバスの運転管理 ⑤ 建設工事現場内及び夢洲内でのパーソナルモビリティの導入
	建設工事・資材運搬の円滑化	建設現場の各工区の資材ストック情報を自動的に取得し、資材が不足する場合、工区の地理情報から集配センターへの最適な資材運搬ルートを設定し、ドローンなどによる運搬を行い、工事の円滑化だけでなく、建設作業員の負担軽減にも寄与する。	⑥ BIM/CIMなどを活用した建設工事の効率化 ⑦ データ及びセンシングによる局所的な気象予測 ⑧ ドローンを活用した測量・工事管理 ⑨ ドローンによる建設現場の見守り ⑩ ドローンによる資材などの運搬、作業現場域内の高所などへの資材配送 ⑪ シャトルバスを活用した資材運搬（貨客混載） ⑫ 遠隔型自動運転ロボットを用いた物資運送
	建設作業員の安全・健康管理の円滑化	オプトインにより建設作業員の年齢や既往歴などを事前に登録し、属性情報とスマートウォッチなどによるリアルタイムな位置情報とバイタルデータを取得することで異常発生時の即時の対応が可能となり、建設作業員の安全・健康管理に寄与する。	⑬ AIによる顔認証での建設作業員の入退場管理 ⑭ バイタル情報及び位置情報によるリアルタイムでの安全・健康管理 ⑮ 建設資機材の位置情報及びカメラ画像を活用した建設現場の安全管理
 夢洲コンストラクション全体概要 出典：2025年日本国際博覧会 大阪パビリオン出展基本計（2022年3月）			
大阪・関西万博	大阪・関西万博で体験する近未来の医療・健康サービス	大阪府と大阪市がREBORNをテーマに設置する「大阪ヘルスケアパビリオン」では、未来の診断や健康ケア、未来医療が体験できるサービスを提供する。	① ヘルスケアアプリ ② まち中のスキャンマシン ③ 都市移動用のモビリティ ④ ミライのフード体験 ⑤ ミライのヘルスケア体験 ⑥ ミライの医療
	大阪・関西万博における自動運転車	自動運転による万博アクセス、会場内移動を実現する。	⑦ 万博会場へのアクセスの一部において、EV（電気）バスなどの自動運転（レベル4相当）を公道で実施 ⑧ 万博会場内の移動の一部において、EV（電気）バスの自動運転（レベル4相当）を走行中給電などの新技術を搭載し実施
	大阪・関西万博における空飛ぶクルマ	会場周辺を中心とする「遊覧飛行」、会場と空港や大阪市内などを結ぶ「二地点間輸送」を実現する。	⑨ 大阪市内、関西の主要空港、観光地を結ぶアクセス整備を、空飛ぶクルマの社会実装で実現
	MaaSによる移動の円滑化	MaaSによる経路検索・予約・決済、会場混雑情報の提供など、シームレスな移動を実現する。	⑩ OSAKAファストパス（仮称） ⑪ 関西MaaS協議会によるMaaSサービス
うめきた2期	ヒューマンデータ利活用に資するプラットフォームの提供	うめきた2期地区の来街者のヒューマンデータ（心理、生理、脳情報、行動など）を本人同意のもと取得し、先進的なサービスや製品開発を志向するサービス事業者が当該データを活用できる環境の構築をめざす。	① ヒューマンデータとAI分析などによるエビデンスに基づく健康増進プログラム
	パーソナルモビリティサービスのシェアサービス	パーソナルモビリティ（シェアサイクル、電動キックボード、低速モビリティ、自動走行モビリティなど）の利用環境を整備することにより、利用者の公園内外の移動を円滑にする。	② パーソナルモビリティによるエリアの回遊性やラストワンマイルの移動快適性の向上
	先端技術を用いた公園内・建物内における施設管理、配送などのマネジメント高度化	人手不足が深刻化する中、建物・公園の維持管理・運営業務について、画像解析・ロボット・ドローンなどの技術を活用することにより、業務の省人化・無人化をめざす。	③ 画像解析を用いた施設管理（AIカメラやビーコン、センサーなど） ④ ICTを活用した「みどり」管理（ICT、ロボットなどの活用）
	リアルとデジタルの融合した都市空間＝Parknessを実現するためのDX推進	多様な体験や実証実験を可能とするリアルとデジタルの融合した新たな価値創造空間の創出やこれを支える大容量通信網（ローカル5Gなど）の整備など、来街者の利便性向上に資する先端的サービスの提供をめざす。	⑤ デジタルサイネージやLEDビジョンなどを用いた感性をシェアする空間の創造 ⑥ ミラーワールドを構築し、MR技術により現実と重ね合わせることで、絶景・癒し・ホラーなど、多種多様なテーマの世界を体験できるイベントを検討 ⑦ Social Goodな活動を行った会員に対し、公園で提供するサービスに利用できるポイントの発行 ⑧ 来街者に対する混雑状況などの提供 ⑨ 都市公園の行為許可・占用許可などの行政手続きのオンライン化 ⑩ リアルタイム・オンラインサービスを支える大容量通信網（ローカル5Gなど）の整備 ⑪ 先端的な技術や先駆的なサービスを通じた「様々な体験価値」を市民や来街者に提供し、市民のQoL向上とライフデザインイノベーションを実現する環境の整備
駅を活用したまちなか・便利なヘルスケア環境の構築		スマートゲートを活用し行動変容を促すとともに、センサーやデバイスを敷設した健康計測スポットの設置により、手軽に健康状態を計測できる環境を整備することで、疾病の予兆の早期把握につなげ、更なる健康行動を促進する。	⑫ Station Health Care